

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

製品を使っていて困ったときやわからないことがあったときに使うマニュアルです。

このヘルプガイドは、ECM-W3およびECM-W3Sの2機種を対象としたマニュアルです。2機種に共通の事項を説明するイラストでは、ECM-W3を使用しています。

対応するカメラについて

本機は、ソニーのレンズ交換式デジタルカメラなどのマルチインターフェースシューを搭載したカメラに対応しています。

- マルチインターフェースシューが搭載されたカメラであっても、使用できない場合や一部機能に対応していない場合があります。
- 本機は製造時にレシーバーとマイクロホンのペアで通信できるように設定されています。そのため一般のBluetooth機器に必要なペアリングやパスキーの入力操作は必要ありませんが、本機以外のBluetooth機能搭載デバイスとは通信できません。

本機に接続可能なカメラについては、こちらからご確認ください。（別ウィンドウで開きます。）

- [ECM-W3をお使いの場合](#)
- [ECM-W3Sをお使いの場合](#)

「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」と表示されたら

こちらをご確認ください。

各部の名称

準備

[本体と付属品を確認する](#)

[充電する](#)

[レシーバーをカメラに取り付ける](#)

[レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続する](#)

[マイクロホンを衣服などに取り付ける](#)

[ウインドスクリーンを取り付ける](#)

[端子保護ホルダー／スタンドを取り付ける](#)

録音

[モードスイッチについて \(ECM-W3\)](#)

[SAFETYボタンについて](#)

[録音する](#)

[外部マイクで録音する](#)

[ランプ表示](#)

[指向特性と周波数特性について](#)

[本機について](#)

[使用上のご注意](#)

[Bluetooth[®]無線通信技術について](#)

[主な仕様](#)

[商標について](#)

[「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」と表示されたら](#)

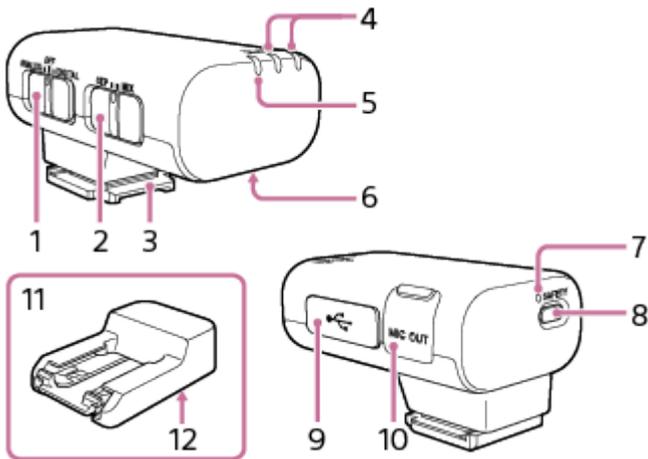
[レシーバー/マイクロホンが動作しない、または充電できない](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

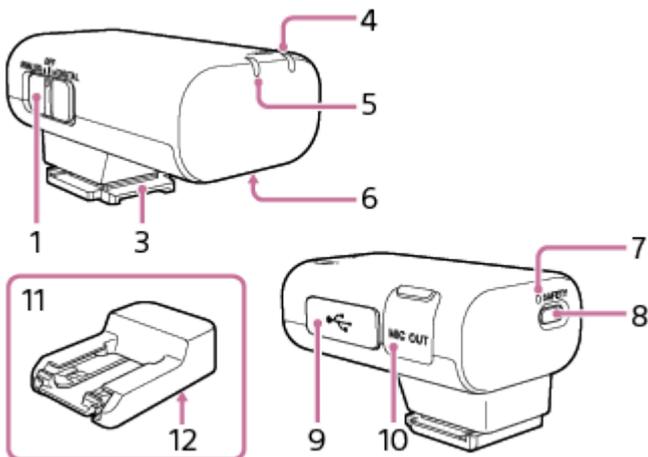
各部の名称

レシーバー

ECM-W3



ECM-W3S



1. スライドスイッチ (ANALOG/OFF/DIGITAL)

アナログ音声出力／電源OFF／デジタル音声出力を切り替えます。

- お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース対応機器の場合は、「DIGITAL」に設定します。
レシーバーからカメラへデジタル信号で音声を伝送することにより、「ANALOG」に設定した場合と比べて、以下のメリットがあります。
 - － ノイズの混入を抑えた音声収録
 - － 収録時の音声遅延の軽減
 - － 24ビット音声の収録 (対応カメラのみ)

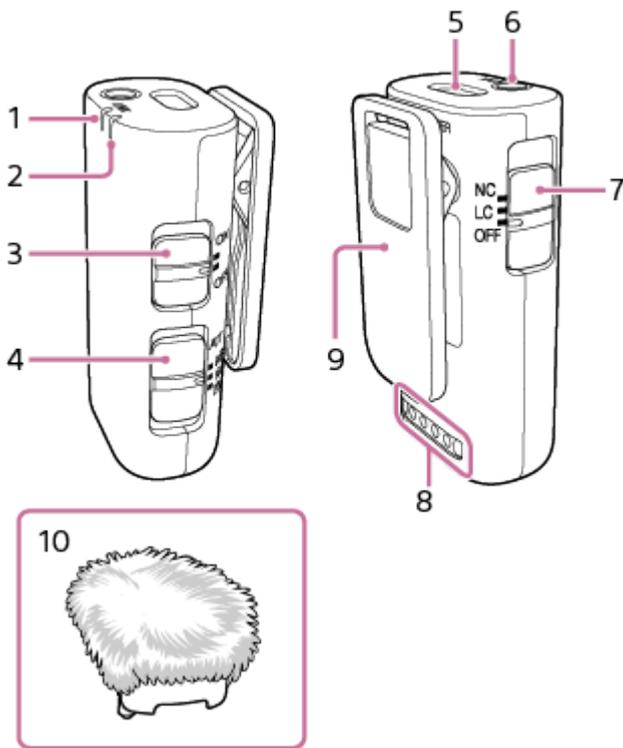
ご注意

- 24ビット音声に対応していない機器やソフトウェアで24ビット音声で記録された動画を再生すると、意図せず大きな音が出たり、音が出ないなど、正常に再生されない場合があります。
 - お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース非対応機器の場合は、「ANALOG」に設定します。
「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」と表示されたら、「ANALOG」に設定してください。
それでもお使いいただけない場合には、[こちら](#)をご確認ください。
 - レシーバーに市販のØ3.5 mmプラグ付きTRSオーディオケーブルが接続されている場合は、ケーブル経由でアナログ出力されます。
 - レシーバーにUSBオーディオ入力対応機器が接続されている場合は、デジタル出力されます。
 - 電池の消耗を防ぐために、使用しないときはスイッチを「OFF」にしてください。
2. モードスイッチ（SEP/MIX）（ECM-W3）
カメラで録画を開始する前にレシーバーのモードスイッチを切り替えることにより、2台のマイクロホンで収録した音声を、それぞれ左チャンネル、右チャンネルの音として別々に録音したり、ミックスして録音したりすることができます。
 3. マルチインターフェースフット
 4. LINK（LINK1/LINK2）ランプ（ECM-W3）
LINKランプ（ECM-W3S）
レシーバー／マイクロホンの接続状態を確認できます。

ヒント

- マイクロホンのクリップ下にある機銘板に、「1」または「2」と番号が記載されています。「1」はマイクロホン1を、「2」はマイクロホン2を表しています。レシーバー／マイクロホンの接続状態を確認するときは、マイクロホン1はレシーバーのLINK1ランプを、マイクロホン2はLINK2ランプをご確認ください。（ECM-W3）
5. 電源ランプ（緑：電源ON、オレンジ：充電中）
レシーバーの電源、充電の状態を確認できます。
オレンジ色で点滅し続けている場合は、充電が必要です。
 6. 充電端子
充電ケースを使って、レシーバーの充電を行います。
 7. SAFETYランプ
SAFETYモードがオンのときに点灯（黄）、オフのときに消灯します。
 8. SAFETYボタン
SAFETYボタンを約2秒間押し続けると、SAFETYモードがオンになります。
詳しくは、「[SAFETYボタンについて](#)」をご覧ください。
 9. USB Type-C[®]端子
市販のUSB Type-Cケーブルで接続し、レシーバーの充電／給電を行います。
パソコンやスマートフォンなど、USBオーディオ入力対応機器に接続して録音することもできます。
 10. マイク出力端子
レシーバーとカメラのマイク入力端子を、市販のØ3.5 mmプラグ付きTRSオーディオケーブルで接続することにより、録音することができます。
 11. 端子保護ホルダー／スタンド
お買い上げ時はレシーバーに装着されています。
 12. 三脚用ネジ穴（1/4インチ）

マイクロホン



1. LINKランプ

レーザー／マイクロホンの接続状態を確認できます。

ヒント

- マイクロホンのクリップ下にある機銘板に、「1」または「2」と番号が記載されています。「1」はマイクロホン1を、「2」はマイクロホン2を表しています。レーザー／マイクロホンの接続状態を確認するときは、マイクロホン1はレーザーのLINK1ランプを、マイクロホン2はLINK2ランプをご確認ください。(ECM-W3)

2. 電源ランプ（緑：電源ON、オレンジ：充電中）

マイクロホンの電源、充電の状態を確認できます。

オレンジ色で点滅し続けている場合は、充電が必要です。

3. 電源スイッチ

電池の消耗を防ぐために、使用しないときはスイッチを「OFF」にしてください。

4. ATTスイッチ

収録したい音声の大きさに応じて選択します。大きい音を歪みを抑えて収録するには「20dB」に、小さい音を収録するには「0dB」に設定します。人の声を収録する場合は、「10dB」が推奨の設定です。カメラのレベルメーターやヘッドホンで音量を確認しながら設定することをおすすめします。

5. 内蔵マイク

6. 外部マイク入力端子（モノラル）

外部マイク（別売）を接続すると、自動的に外部マイクからの収録に切り替わります。

7. フィルタースイッチ（NC/LC/OFF）

NC：ノイズカットフィルターを使うときに選択します。耳障りな雑音をデジタル信号処理で効果的に除去します。音質に違和感が生じる場合には「OFF」にします。

LC：ローカットフィルターを使うときに選択します。風切り音や空調ノイズ、振動ノイズなどの不要な雑音を低減します。

OFF：フィルターをオフにします。

8. 充電端子

充電ケースを使って、マイクロホンの充電を行います。

9. クリップ

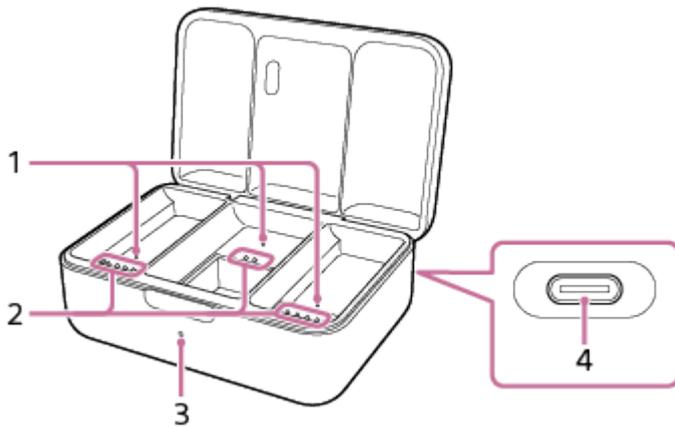
衣服などに取り付けるときに使用します。

10. ウィンドスクリーン

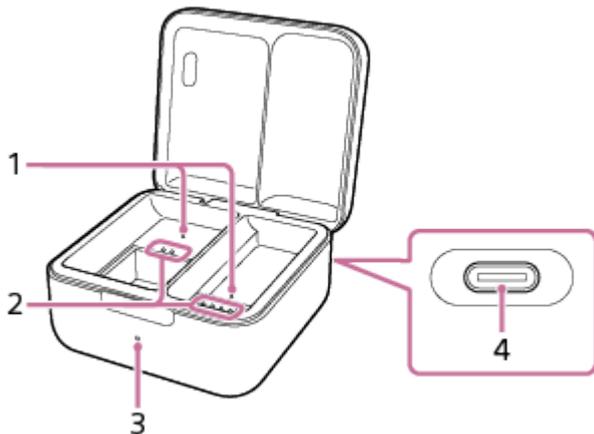
マイクロホンに取り付けて使用することにより、強い風や息が直接あたるときに発生する雑音を減らします。

充電ケース

ECM-W3



ECM-W3S



1. 検出スイッチ
レシーバー／マイクロホンが充電ケースに収納されたことを検知します。
2. 充電端子
3. 充電ランプ
充電ケースの充電の状態を確認できます。
4. USB Type-C端子
充電ケースにレシーバー／マイクロホンを入れ、市販のUSB Type-Cケーブルをつないで充電します。

ご注意

- レシーバー／マイクロホンを収納するとき以外に、検出スイッチや充電端子部分を故意に押し込んだりしないでください。故障の原因になります。

関連項目

- [充電する](#)
- [ウィンドスクリーンを取り付ける](#)
- [端子保護ホルダー／スタンドを取り付ける](#)

- モードスイッチについて (ECM-W3)
- SAFETYボタンについて
- 録音する
- ランプ表示

5-055-395-01(2) Copyright 2023 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

本体と付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。

() 内の数字は個数です。

ECM-W3

- レシーバー (1)
端子保護ホルダー/スタンド (装着済み) (1)
- マイクロホン (2)
- 充電ケース (1)
- ウィンドスクリーン (2)
- ポーチ (1)
- 印刷物一式

ECM-W3S

- レシーバー (1)
端子保護ホルダー/スタンド (装着済み) (1)
- マイクロホン (1)
- 充電ケース (1)
- ウィンドスクリーン (1)
- ポーチ (1)
- 印刷物一式

ご注意

- 国や地域によって付属品が異なることがあります。付属品について詳しくは、スタートガイド (付属) でご確認ください。

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

充電する

レーザー／マイクロホン／充電ケースは、充電式リチウムイオン電池を内蔵しています。充電ケースに市販のUSB Type-Cケーブルを接続して充電します。

ご注意

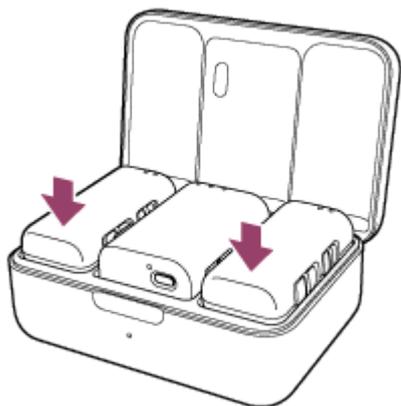
- 充電するときは、レーザー／マイクロホンの電源を切ってください。
レーザー／マイクロホンの電源を入れたままでも充電は可能ですが、レーザー／マイクロホンを充電ケースに入れると、レーザー／マイクロホンの電源は自動的にオフになります。そのため、次回使用する際に、レーザーのスライドスイッチとマイクロホンの電源スイッチを一度「OFF」に設定したあと、再度電源を入れる必要があります。
- レーザー／マイクロホンの電源を入れたまま充電した場合、充電ケースから取り出したあとに、レーザーのスライドスイッチとマイクロホンの電源スイッチを変更しないまま再度充電ケースに入れても、充電は開始されません。

1 レーザー／マイクロホンを充電ケースに入れる。

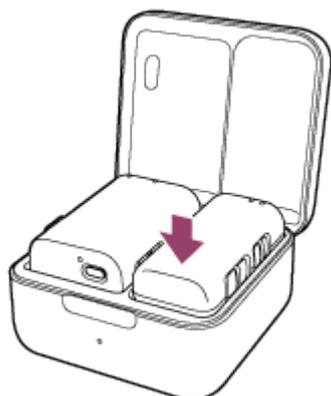
ご注意

- マイクロホンは、「カチッ」というまで押し込んでください。正しくセットされている場合は、充電が始まった際にマイクロホンの電源ランプ（オレンジ）が点灯します。

ECM-W3

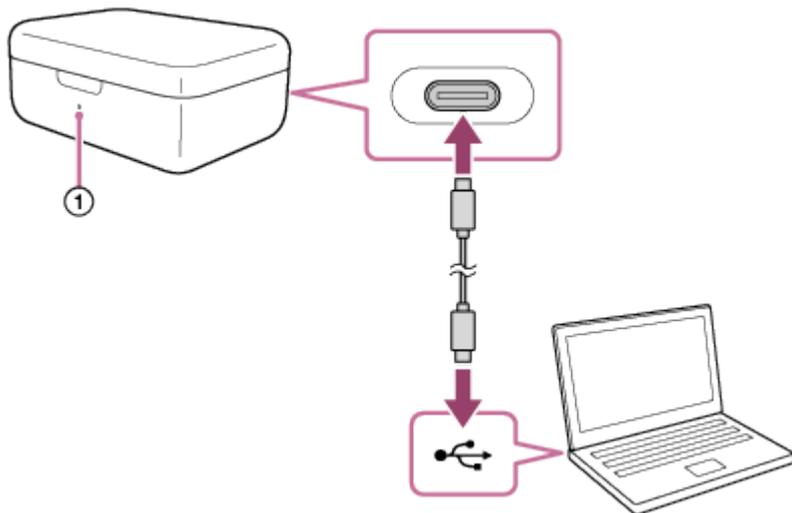


ECM-W3S



セットしたら、充電ケースのふたを閉めてください。

2 充電ケースの背面にあるUSB Type-C端子にUSB Type-Cケーブルを接続して充電する。



充電ケースの充電ランプ（オレンジ）（①）が点灯し、充電が始まります。

充電ケースの内蔵バッテリーが満充電になった場合は、収納中のレーザー／マイクロホンの充電状態に関わらず、充電ケースの充電ランプは消灯します。この状態でUSB Type-Cケーブルを外すと、充電ケースのバッテリーを使ってレーザー／マイクロホンの充電が継続されます。

充電時間について

充電ケースにレーザー／マイクロホンが収納されている状態で充電しているときは、レーザー／マイクロホン／充電ケースは同時にUSB充電されます。

レーザー／マイクロホンは、約10分間の充電で約30分の使用が可能です。

- レーザー／マイクロホンの満充電に要する時間：約2時間*
- 充電ケースの満充電に要する時間：約2時間30分*

* 充電式電池の残量がない状態から、パソコンのUSB充電ポート（CDP（Charging Downstream Port））を使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

外出先でレーザー／マイクロホンを充電する

充電ケースには充電式電池が内蔵されています。充電ケースを充電しておくで、外出先などで電源がない場合もレーザー／マイクロホンを充電できます。

- ECM-W3
レーザーおよびマイクロホン1、マイクロホン2の、すべてのバッテリー残量がない状態から、約1回満充電できます。
- ECM-W3S
レーザーおよびマイクロホンのバッテリー残量がない状態から、約2回満充電できます。

外出先でレーザー／マイクロホンを充電するときのご注意

レーザー／マイクロホンを充電ケースから取り出したときに、充電ケースの充電ランプ（オレンジ）が点滅する場合は、充電ケースの充電式電池の残量が少なくなっています。充電ケースを充電してください。

ヒント

- レーザー／マイクロホンの充電状態については、充電ケースのふたを開け、それぞれの電源ランプで確認してください。詳しくは「[ランプ表示](#)」をご覧ください。

USB Type-Cケーブルを使ってレーザーを充電するには

レシーバーは、以下の方法で充電ケースを使わずに充電することもできます。

1. 端子カバーを開けて、USB Type-C端子にUSB Type-Cケーブルを接続する。
2. 起動中のパソコンなどにつなが、充電する。
電源ランプ（オレンジ）が点灯します。
3. 充電が完了したら、レシーバーからUSB Type-Cケーブルを外す。
電源ランプが消灯したら充電完了（満充電）です。

ご注意

- レシーバーをパソコンに接続しているときに、無理な力を加えないでください。レシーバーやパソコンが破損することがあります。
- 電源を接続していないノートパソコンとレシーバーを接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗する場合があります。レシーバーを接続したまま長時間放置しないでください。
- 自作パソコンや改造したパソコンでの充電や接続は保証できません。同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。
- パソコンがスタンバイ（スリープ）や休止状態になると充電できなくなります。この場合はパソコンの設定を変更して、充電しなおしてください。
- 長い間使わなかったときは、充電式電池の持続時間が短くなる場合があります。何回か充放電を繰り返すと、十分に充電できるようになります。長期にわたって保存する場合は、過放電防止のため、半年に1回程度の充電を行ってください。
- 長い間使わなかったときは、充電時間が長くなる場合があります。
- 本機の充電式電池に問題がある場合、充電中に異常を検知すると充電ケースの充電ランプ（オレンジ）が点滅し続けます。周囲の温度が15℃から35℃の範囲で充電することをおすすめします。この範囲を超えると、効率のよい充電ができないことがあります。それでも問題が解決しない場合は、ソニーの相談窓口にご相談ください。
- 本機を長期間お使いにならなかったあとに充電を行った場合、電源ランプ（オレンジ）または充電ランプ（オレンジ）がすぐに点灯しない場合があります。電源ランプ（オレンジ）または充電ランプ（オレンジ）が点灯するまでしばらくお待ちください。
- 電池の持続時間が極端に短くなった場合は、充電式電池の交換時期です。ソニーの修理相談窓口にご相談ください。
- 急激な温度変化や、直射日光、霧、砂、ほこりや電氣的な衝撃を避けてください。また駐車中の車内には、絶対に放置しないでください。
- レシーバー／充電ケースをパソコンと接続するときはUSB Type-Cケーブルのみを使い、必ず直接つないでください。USBハブなどを経由して接続すると、正しく充電されません。

関連項目

- [ランプ表示](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

レシーバーをカメラに取り付ける

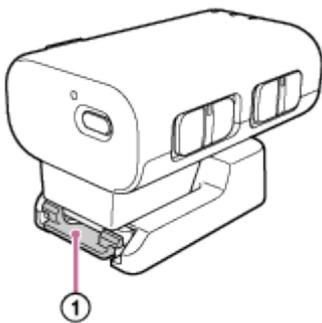
レシーバーをカメラに取り付けます。

ご注意

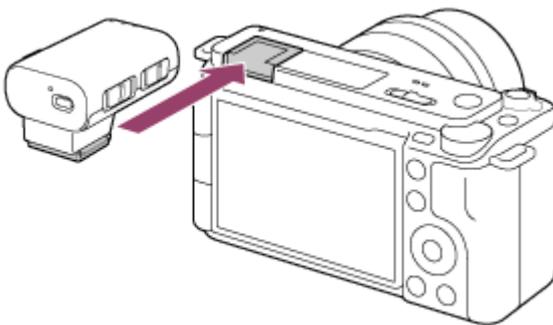
- 取り付ける前に、レシーバーを十分に充電してください。
- 取り付ける／取り外す際は、レシーバーとカメラの電源を切った状態で行ってください。

1 端子保護ホルダー／スタンドを取り外す。

端子保護ホルダー／スタンドの保持レバー (①) を少し下げ、レシーバーを引き抜いてください。



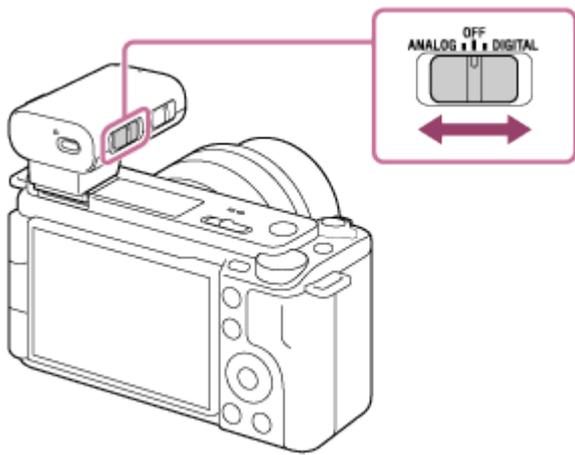
2 カメラのマルチインターフェースシューとレシーバーのマルチインターフェースフット的位置を合わせて、取り付ける。



ご注意

- レシーバーをカメラのマルチインターフェースシューにしっかり奥まで差し込んでください。
- カメラの内蔵フラッシュが上がっている場合は、下げてください。

3 スライドスイッチの設定を確認する。



お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース対応機器の場合は「DIGITAL」に、非対応機器の場合は、「ANALOG」に設定されていることを確認してください。正しく設定されていない場合、互換性についてのメッセージが表示されます。対応機器については、以下のサイトでご確認ください。

- ECM-W3
<https://www.sony.net/dics/ecmw3/>
- ECM-W3S
<https://www.sony.net/dics/ecmw3s/>

取り外すときは

レシーバーを、取り付け方向と反対にスライドさせてください。

関連項目

- [充電する](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

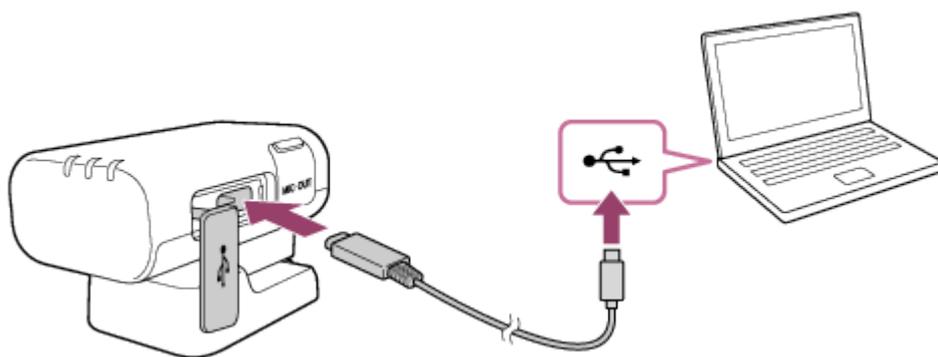
レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続する

レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続します。

ご注意

- パソコンやスマートフォンなどの操作については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続して録音するには、お使いの機器がUSB Audio Class 1.0に対応している必要があります。
- レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続する際は、接続する機器の端子を確認して、対応したケーブル、または変換アダプターなどをお使いください。
- 接続する前に、レシーバーを十分に充電してください。
- 接続する/取り外す際は、レシーバーの電源を切った状態で行ってください。

1 市販のUSB Type-Cケーブルでレシーバーとパソコンやスマートフォンなどを接続する。



2 レシーバーのスライドスイッチ (ANALOG/OFF/DIGITAL) で、「ANALOG」または「DIGITAL」を選択する。

USB接続しているときは、「ANALOG」または「DIGITAL」の選択に関わらずデジタル出力になります。

関連項目

- [充電する](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

マイクロホンを衣服などに取り付ける

マイクロホンを衣服などに取り付けます。

ご注意

- 取り付ける前に、マイクロホンを十分に充電してください。

1 クリップで胸ポケットなどお好みの場所に取り付ける。

使用する状況や音の状態に合わせて最適な位置に取り付けてください。

関連項目

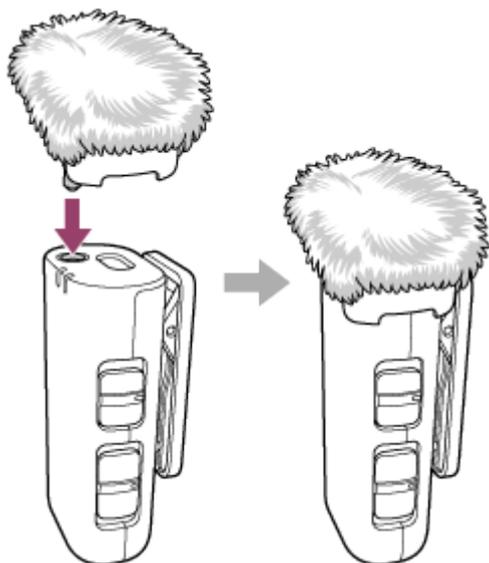
- [充電する](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

ウインドスクリーンを取り付ける

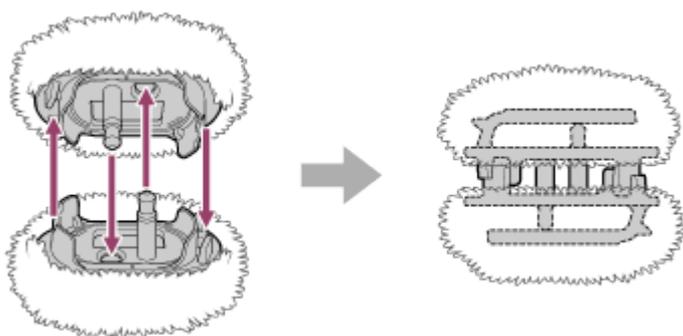
ウインドスクリーンをマイクロホンに取り付けて使用することにより、強い風や息が直接あたるときに発生する雑音を減らします。

- 1 マイクロホンの外部マイク入力端子に、ウインドスクリーンの突起部を差し込む。



ウインドスクリーンを持ち運ぶときは (ECM-W3)

ウインドスクリーンは、以下のように2つを組み合わせ持ち運ぶことができます。



ご注意

- ウインドスクリーンがぬれた場合は、マイクロホンから取り外し陰干ししてください。
- ウインドスクリーンのフレーム部分を持って、着脱してください。

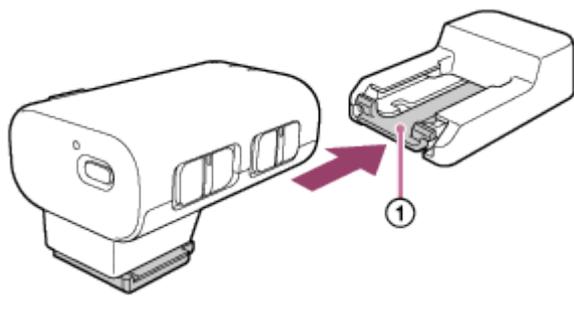
ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

端子保護ホルダー／スタンドを取り付ける

レシーバーを持ち歩く際は、端子保護ホルダー／スタンド（付属）を取り付けます。

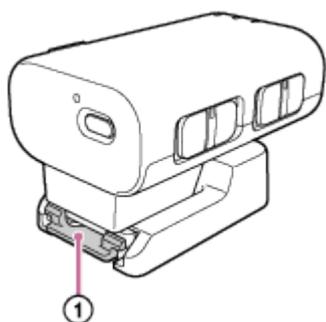
- 1 端子保護ホルダー／スタンドに、レシーバーのマルチインターフェースフットを「カチッ」というまで差し込む。

端子保護ホルダー／スタンドの保持レバー（①）を少し下げながら差し込んでください。



取り外すときは

端子保護ホルダー／スタンドの保持レバー（①）を少し下げ、レシーバーを引き抜いてください。



ヒント

- レシーバーをカメラから離して設置するときは、端子保護ホルダー／スタンドを装着することでレシーバーを平滑な面に置いて使用できます。
- 端子保護ホルダー／スタンドの三脚用ネジ穴（1/4インチ）で、三脚に取り付けることも可能です。三脚に取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚をお使いください。ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、端子保護ホルダー／スタンドを傷つけることがあります。

ご注意

- レシーバーを使用しないときは、マルチインターフェースフットに端子保護ホルダー／スタンドを取り付けて保護してください。

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

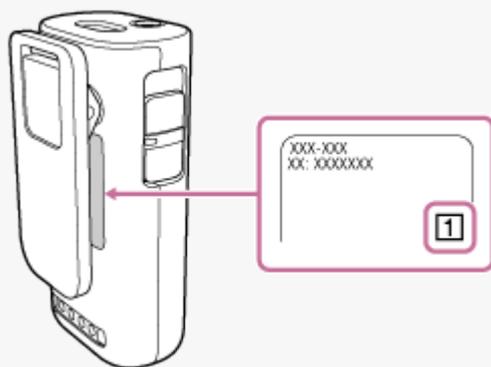
モードスイッチについて (ECM-W3)

カメラで録画を開始する前に、レシーバーのモードスイッチを切り替えてモードを選択します。

- SEPモード
2台のマイクロホンで収録した音声を、それぞれ左チャンネル、右チャンネルの音として別々に録音します。マイクロホン1で収録した音声は左チャンネル、マイクロホン2で収録した音声は右チャンネルに出力されます。1台のマイクロホンで収録した音声は、以下のように出力されます。
 - マイクロホン1のみを使用している場合：音声は左チャンネルにのみ出力され、右チャンネルには出力されません（無音状態）。
 - マイクロホン2のみを使用している場合：音声は右チャンネルにのみ出力され、左チャンネルには出力されません（無音状態）。

ヒント

- マイクロホンのクリップ下にある機銘板に、「1」または「2」と番号が記載されています。「1」はマイクロホン1を、「2」はマイクロホン2を表しています。マイクロホン1とマイクロホン2を判別するときは、こちらの番号を確認してください。



- MIXモード
2台のマイクロホンで収録した音声をミックスして録音します。

関連項目

- [録音する](#)
- [外部マイクで録音する](#)
- [ランプ表示](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

SAFETYボタンについて

レシーバーのSAFETYボタンを約2秒間押し続けると、SAFETYランプ（黄）が点灯し、SAFETYモードがオンになります。

SAFETYモードでは、大音量時の音声の歪みを抑えるために、チャンネルゲインを20 dB下げた状態で録音します。

ECM-W3をお使いの場合

SAFETYモードをオンにした際、使用しているマイクロホンの台数やモードスイッチの設定によって、ゲインが下がるチャンネルが異なります。

- 2台のマイクロホンを使用している場合
 - モードスイッチの設定：MIX
2台のマイクロホンで収録した音声をミックスし、右チャンネル側はゲインを20 dB下げた状態、左チャンネル側はそのままの状態です。
 - モードスイッチの設定：SEP
SAFETYモードは無効です。

ヒント

- モードスイッチがMIXかつSAFETYモードがオンの状態から、モードスイッチをSEPに切り替えた場合、SAFETYランプ（黄）は点滅後、消灯し、SAFETYモードは自動的にオフになります。

- 1台のマイクロホンを使用している場合
 - モードスイッチの設定：MIX
マイクロホン1を使用している場合も、マイクロホン2を使用している場合も、右チャンネル側はゲインを20 dB下げた状態、左チャンネル側はそのままの状態です。
 - モードスイッチの設定：SEP
マイクロホン1を使用している場合は、右チャンネル側はゲインを20 dB下げた状態、左チャンネル側はそのままの状態です。
マイクロホン2を使用している場合は、右チャンネル側はそのままの状態、左チャンネル側はゲインを20 dB下げた状態で録音します。

ヒント

- 1台のマイクロホンを使用していて、モードスイッチがSEPかつSAFETYモードがオンの状態から、2台のマイクロホン接続に変更した場合、SAFETYランプ（黄）は点滅後、SAFETYモードは自動的にオフになります。

ヒント

- SAFETYモードのオン/オフの情報は、レシーバーの電源を切ったときに記憶されます。次回電源を入れた際に、前回のSAFETYモードの状態が保持されます。

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

録音する

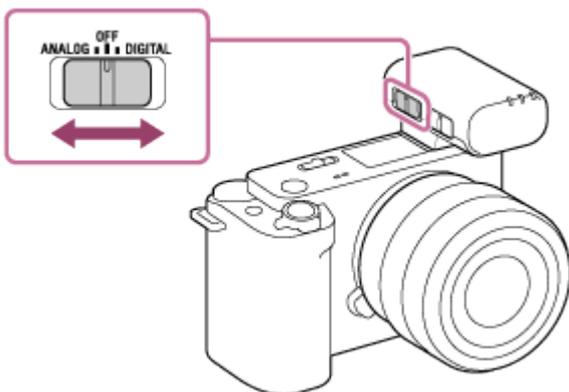
カメラに取り付けたレシーバーと、被写体の衣服などに取り付けたマイクロホンで音声を録音します。

1 カメラの電源を入れ、スタンバイ状態にする。

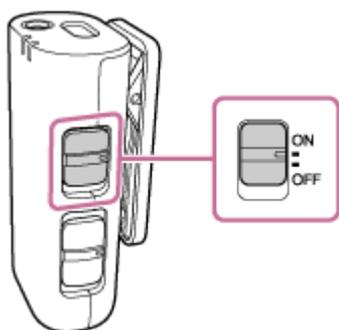
2 レシーバー／マイクロホンの電源を入れる。

- レシーバーのスライドスイッチ (ANALOG/OFF/DIGITAL) で希望の出力方法を選択します。お使いのカメラがマルチインターフェースシューのデジタルオーディオインターフェース対応機器の場合は「DIGITAL」に、非対応機器の場合は、「ANALOG」に設定されていることを確認してください。正しく設定されていない場合、互換性についてのメッセージが表示されます。対応機器については、以下のサイトでご確認ください。

- ECM-W3
<https://www.sony.net/dics/ecmw3/>
- ECM-W3S
<https://www.sony.net/dics/ecmw3s/>



- マイクロホンの電源スイッチを「ON」にします。



レシーバー／マイクロホンの電源を入れると、直後にマイクロホンのLINKランプ (青) が遅い点滅をします。この状態で相手の機器を探索し、通信接続、認証を行っています。接続状態になり音声を明瞭に記録できる状態になると、両方のLINKランプ (青) が点灯します。接続状態にならない場合は、マイクロホンとレシーバーを近づけてお試しください。環境等の影響を受けている場合があります。

③ レシーバーのLINKランプ（青）が点灯していることを確認したうえで、カメラで録画を開始する。

パソコンやスマートフォンなどに接続して録音するには

レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続し、録音することもできます。

接続方法について詳しくは、「[レシーバーをパソコンやスマートフォンなどに接続する](#)」をご覧ください。

ご注意

- ご使用後は、必ずレシーバー／マイクロホンの電源を切ってください。
- 本機をアナログ接続した場合、お使いいただく環境によってはノイズが録音される場合があります。
- デジタル対応マルチインターフェースシュー搭載のカメラや、USBオーディオ入力対応機器をご使用の場合、デジタル接続を行ってください。また、無線機器が近くにある場合はレシーバー／マイクロホンを十分に離してご使用ください。
- 録画中にレシーバーのモードスイッチを切り替えると、正しくモードが切り替わらなかったり、接続が途絶えて音声記録されなかったり、あるいはノイズが録音されてしまったりする場合があります。必ずいったん録画を停止してから切り替えてください。（ECM-W3）
- 録画中にマイクロホンのATTスイッチまたはフィルタースイッチを操作すると、操作音が録音されてしまうことがあります。必ずいったん録画を停止してから切り替えてください。
- レシーバー／マイクロホンを使用して撮影すると、録画スタート時に操作音（電子音）が記録される場合があります。お使いのカメラの操作音（電子音）の設定を無効にしてから録画することをおすすめします。詳しくは、お使いのカメラの取扱説明書をご覧ください。
- レシーバーは、カメラからも電源が供給されます。（電源は供給されますが、レシーバーの充電はされません。）ご使用のカメラによっては、電源が供給されない場合があります。対応機種については、以下のサイトでご確認ください。
 - ECM-W3
<https://www.sony.net/dics/ecmw3/>
 - ECM-W3S
<https://www.sony.net/dics/ecmw3s/>

関連項目

- [モードスイッチについて（ECM-W3）](#)
- [ランプ表示](#)

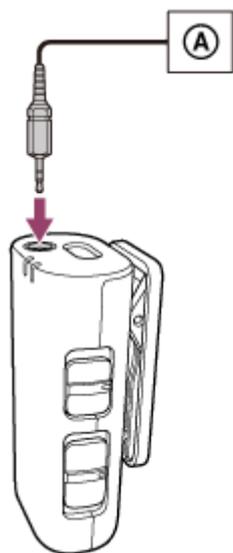
ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

外部マイクで録音する

外部マイク（別売）をマイクロホンに接続して録音します。録音される音はモノラルになります。

1 マイクロホンの電源を切った状態で、外部マイクを外部マイク入力端子に接続する。

内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音が録音されます。



Ⓐ 外部マイク

ご注意

- マイクロホンにウインドスクリーンを取り付けている場合は、取り外してください。
- ステレオの外部マイクを接続した場合は、左チャンネルの音声のみがモノラルで記録されます。
- マイクロホンの外部マイク入力端子は、プラグインパワー方式の外部マイクに対応しています。

関連項目

- [モードスイッチについて \(ECM-W3\)](#)

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

ランプ表示

機器や通信の状態によって、ランプは以下のように点灯・点滅・消灯します。

● : 点灯 (緑色) / ● : 点灯 (オレンジ色) / ● : 点灯 (青色) / ● : 点灯 (黄色) / - : 消灯

電源ランプ

- 電源を入れた直後
 -  (緑色で点灯) *
- レシーバーの電源を切ったとき
 - レシーバー
 - (消灯)
 - マイクロホン
 -  (緑色で点灯) *
- マイクロホンの電源を切ったとき
 - レシーバー
 -  (緑色で点灯) *
 - マイクロホン
 - (消灯)
- バッテリー残量が少なくなったとき
 -  (オレンジ色で2回点滅後、緑色で点灯)
- バッテリーがほとんど残っていないとき
 -  (オレンジ色で点滅し続けている)
- 充電しているとき
 -  (オレンジ色で点灯)

* USB接続中はオレンジ色で点灯となります。

LINKランプ

- 電源を入れた直後
 - レシーバー
 - (消灯 (待ち受け状態)) *1 *2
 - マイクロホン
 -  (青色で遅い点滅 (待ち受け状態)) *1
- 接続状態になり、音声が明瞭に記録できる
 -  (青色で点灯)
- レシーバーの電源を切ったとき

- レシーバー
- (消灯)
- マイクロホン
 (青色で遅い点滅 (待ち受け状態)) *1
- マイクロホンの電源を切ったとき
 - レシーバー
- (消灯 (待ち受け状態)) *1 *2
 - マイクロホン
- (消灯)
- 通信状態が悪く音声途切れるとき
 (青色で点滅 (点滅が速くなるほど、通信状態が悪い状態)) *3
- 充電しているとき
- (消灯)

*1 この状態が5分続くと、レシーバー/マイクロホンのオートパワーオフ機能が働きます。使用を再開するためには、レシーバー/マイクロホンの電源を切ってから、再度電源を入れてください。

*2 レシーバーをUSB接続している場合は、レシーバーのオートパワーオフ機能は無効になります。

*3 通信状態をレシーバー/マイクロホンのLINKランプで確認してください。周囲の無線状況や、障害物が多い場合など、通信状態が悪化して音声途絶えたり、ノイズが発生することがあります。その場合は、LINKランプ (青) が点滅します。距離が適切か、障害物がないかなど確認し、LINKランプ (青) が安定して点灯している状態でご使用ください。

充電ランプ (充電ケース)

- 充電中
 (オレンジ色で点灯)
- 充電異常 (バッテリー温度異常など)
 (オレンジ色で点滅し続けている)
- レシーバー/マイクロホンを充電ケースに入れたとき/取り外したとき、または充電ケースからUSB Type-Cケーブルを抜いたとき
 - 充電ケースのバッテリー残量が充分にあるとき
 - - - (オレンジ色で3秒間点灯後、消灯)
 - 充電ケースのバッテリー残量が半分くらいのとき
 - - - (オレンジ色で2回点滅後、消灯)
 - 充電ケースのバッテリー残量がほとんど残っていないとき
 - - - (オレンジ色で5回点滅後、消灯)
- 充電していないとき (満充電含む)
- (消灯)

SAFETYランプ (レシーバー)

- SAFETYモードがオンのとき
 (黄色で点灯)
- SAFETYモードがオフのとき
- (消灯)
- SAFETYモードが自動的にオンからオフに移ったとき
 - - - (黄色で3回点滅後、消灯)

関連項目

- [各部の名称](#)

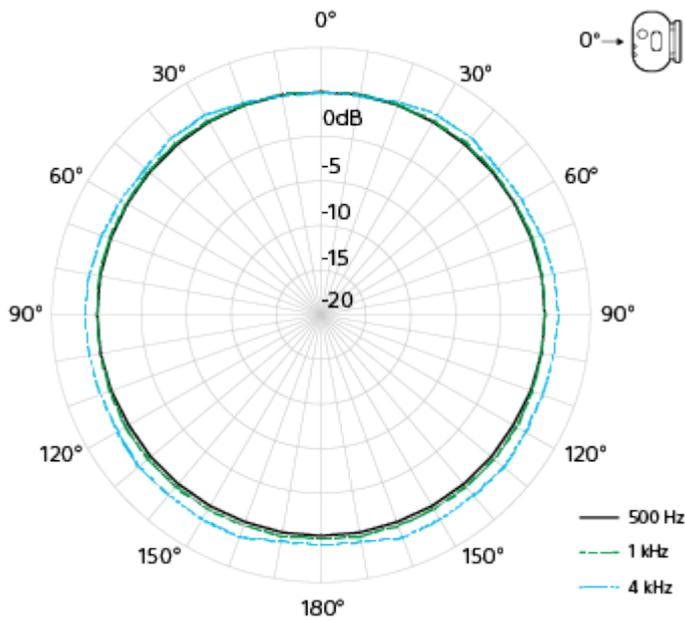
5-055-395-01(2) Copyright 2023 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

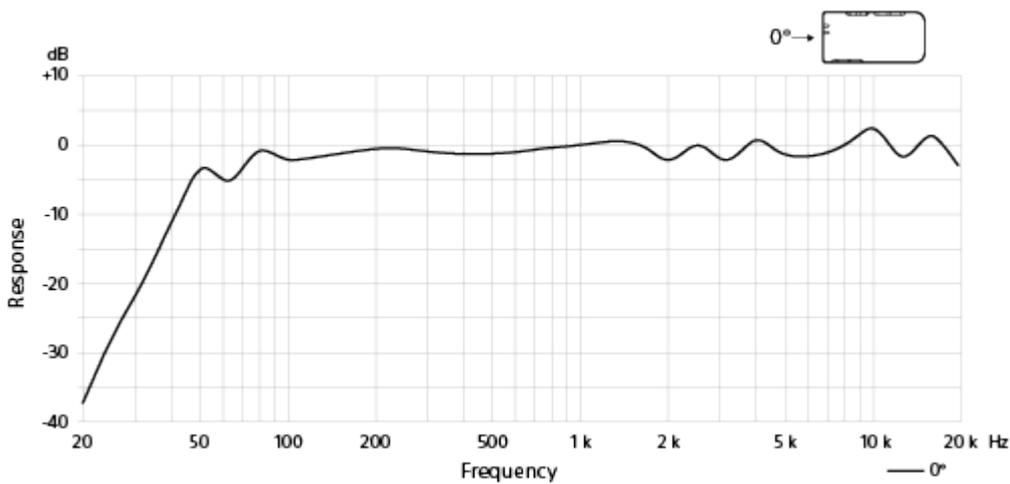
指向特性と周波数特性について

モノラル 全指向性

● 指向特性



● 周波数特性



ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

使用上のご注意

スタートガイド（付属）の「取り扱い上のご注意」もあわせてお読みください。

- 録音中にレシーバー、マイクロホンまたは市販の $\phi 3.5$ mmプラグ付きTRSオーディオケーブルに触れると、ノイズとして録音される場合があります。
- 本機をアナログ接続した場合、お使いいただく環境によってはノイズが録音される場合があります。
- デジタル対応マルチインターフェースシュー搭載のカメラや、USBオーディオ入力対応機器をご使用の場合、デジタル接続を行ってください。また、無線機器が近くにある場合はレシーバー／マイクロホンを十分に離してご使用ください。
- 充電ケースは磁石を使用しているため、金属片（カッターの刃やホチキスの針など）が付着していないことを確認してください。
付着物により、けがなどの原因となります。
- 充電ケースは磁石を使用しているため、ペースメーカー、水頭症治療用圧可変式シャントなどの医療機器に影響を与える恐れがあります。充電ケースをこれらの医療機器をご使用の方に近づけないでください。これらの医療機器を使用されている場合、充電ケースのご使用前に担当医師にご相談ください。
- 充電ケースを磁気カードに近づけないでください。
充電ケースは磁石を使用しています。磁気を利用したカード類を近づけると、カードの磁気に変化して使えなくなることがあります。
- 使用中、イヤホンをマイクに近づけると「ピー」という音が発生することがあります（ハウリング現象）。その場合は、イヤホンとマイクの距離をできるだけ離すか、イヤホンの音量を下げてください。
- レシーバーを持ってカメラを持ち上げないでください。レシーバーが破損したり、カメラが落下する恐れがあります。
- レシーバーを持ち歩く際は、端子部の破損防止のためにも、カメラから取り外して付属の端子保護ホルダー／スタンドを取り付け、ポーチに入れてください。または充電ケースに収納してください。
- レンズ交換の際、レンズおよびカメラボディにウインドスクリーンの繊維が付着していないか確認してください。付着している場合は、ブロアーなどで繊維を取り除いてからレンズ交換をしてください。
- マイクにほこりや水滴などが付着していると、正しく録音されないことがあります。取り除いてから使用してください。
- レシーバーを使用しないときは、マルチインターフェースフットに端子保護ホルダー／スタンドを取り付けて保護してください。
- 温度の低い場所でマイクロホンをご使用になる場合は、常温時（25℃）に比べて電池の性能が低下しますので、使用できる時間が短くなります。
- 本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能の使用を中止してください。電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となる恐れがあります。

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

Bluetooth[®]無線通信技術について

- Bluetooth無線通信技術とは、パソコンとその周辺機器、スマートフォンなど、さまざまな機器同士を無線で接続し、相互の通信を可能にする技術の名称です。
- 本機は製造時にレシーバーとマイクロホンのペアで通信できるように設定されています。そのため一般のBluetooth機器に必要なペアリングやパスキーの入力操作は必要ありませんが、本機以外のBluetooth機能搭載デバイスとは通信できません。

ご注意

- 本機は以下の状況において通信感度に影響を受けることがあります。
 - － レシーバー前部とマイクロホンの間に人体や金属、壁または反射面などの障害物がある場合
 - － 無線LANが構築されている場所、複数のBluetooth機器を近距離で使用している場所、電子レンジを使用中の周辺、その他電磁波が発生している場所など
- マイクロホンをカメラに近づけすぎると、電波の影響で、記録される音声にノイズが入る場合があります。1 m以上離れた状態でご使用ください。
- 通信状態をレシーバー/マイクロホンのLINKランプで確認してください。周囲の無線状況や、障害物が多い場合など、通信状態が悪化して音声が途絶えたり、ノイズが発生することがあります。その場合は、LINKランプ（青）が点滅します。距離が適切か、障害物がないかなど確認し、LINKランプ（青）が安定して点灯している状態でご使用ください。

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

主な仕様

通信仕様

通信方式	Bluetooth標準規格 Ver. 5.3
出力	Bluetooth標準規格 Power Class 1
主なBluetoothプロファイル	Generic Attribute Profile
コーデック	LC3plus ^{*1}
通信距離 ^{*2}	最大 150 m

*1 LC3plusはECM-W3およびECM-W3Sで使用されているオーディオ規格です。

*2 マイクロホンを立てて、レシーバーを真っ直ぐに向かい合わせたときの目安となる距離です。金属、人体などの障害物や反射面の有無など周囲の状況や電波状況により変化します。

レシーバー

マイク出力端子	Ø3.5 mmミニジャック (ステレオ)
USB端子	USB Type-C
電源	内蔵リチウムイオンバッテリー (約3.7 V) / マルチインターフェースシューから供給
定格電圧	5 V 
消費電力 (約)	0.18 W
連続使用時間 (約)	<ul style="list-style-type: none"> ● 3時間 (内蔵バッテリー満充電、アナログ音声出力使用時) ● 18時間 (マルチインターフェースシューから供給時)
充電時間 (約)	2時間* (充電ケース経由)
外形寸法 (約)	32 mm × 29 mm × 50 mm (幅/高さ/奥行き)
質量 (約)	25 g

* 充電式電池の残量がない状態から、パソコンのUSB充電ポート (CDP (Charging Downstream Port)) を使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

マイクロホン

サンプリング周波数/量子化ビット数	48 kHz/16 bit、48 kHz/24 bit ^{*1}
周波数特性	20 Hz~20 000 Hz
指向特性	モノラル 全指向性

正面感度*2	-20 dBFS (0.1 Pa、1 kHz)
固有雑音*2 *3	16 dB SPL以下 (0 dB=2×10 ⁻⁵ Pa)
風雑音*2 *4	<ul style="list-style-type: none"> ● 49 dB SPL以下 (ウインドスクリーン未装着時) ● 28 dB SPL以下 (ウインドスクリーン装着時)
最大入力音圧レベル	120 dB SPL *2 *5
ダイナミックレンジ*3	104 dB以上
外部マイク入力端子	Ø3.5 mmミニジャック (モノラル)
電源	内蔵リチウムイオンバッテリー (約3.7 V)
定格電圧	5 V 
消費電力 (約)	0.09 W
連続使用時間 (約)	6時間 (内蔵バッテリー満充電時)
充電時間 (約)	2時間*6 (充電ケース経由)
外形寸法 (約)	25 mm × 52.5 mm × 20.5 mm (幅/高さ/奥行き)
質量 (約)	17 g

*1 24ビット音声に対応していない機器やソフトウェアで24ビット音声で記録された動画を再生すると、意図せず大きな音が出たり、音が出ないなど、正常に再生されない場合があります。

*2 ATTスイッチ=10dB

*3 スライドスイッチ=DIGITAL

*4 マイクロホンの各方向に風速2 m/秒の気流を当てたとき、マイクロホンに発生する雑音出力の平均値を等価入力音圧に換算した値。(0 dB=2×10⁻⁵ Pa)

*5 マイクロホンの出力信号が1 kHzで1%の波形ひずみを生じる入力レベルの等価入力音圧換算値 (0 dB=2×10⁻⁵ Pa)

*6 充電式電池の残量がない状態から、パソコンのUSB充電ポート (CDP (Charging Downstream Port)) を使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

充電ケース (ECM-W3)

定格電圧	5 V 
消費電力 (約)	5.9 W
充電時間 (約)	2時間30分*
外形寸法 (約)	92.5 mm × 41.5 mm × 65.5 mm (幅/高さ/奥行き)
質量 (約)	110 g

* 充電式電池の残量がない状態から、パソコンのUSB充電ポート (CDP (Charging Downstream Port)) を使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

充電ケース (ECM-W3S)

定格電圧	5 V 
消費電力 (約)	5.4 W

充電時間（約）	2時間30分*
外形寸法（約）	68.5 mm × 41.5 mm × 65.5 mm（幅／高さ／奥行き）
質量（約）	90 g

* 充電式電池の残量がない状態から、パソコンのUSB充電ポート（CDP（Charging Downstream Port））を使って満充電するのにかかる時間です。使用条件により変わる場合があります。

その他

動作温度	0 °C～40 °C
保存温度	-10 °C～+55 °C

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

5-055-395-01(2) Copyright 2023 Sony Corporation

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

商標について

- Bluetooth[®]ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニーグループ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- Multi Interface Shoe（マルチインターフェースシュー）はソニーグループ株式会社の商標です。
- USB Type-C[®]およびUSB-C[®]はUSB Implementers Forumの登録商標です。

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

「このアクセサリは本機との互換性がないか使用できない状態です」と表示されたら

以下の順番で確認してください。

1 本機に対応しているカメラをお使いですか？

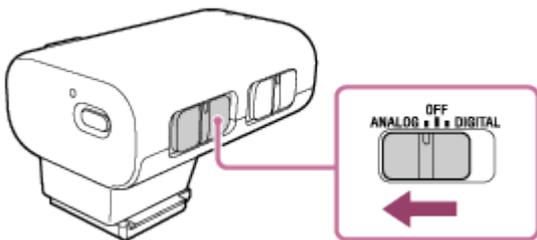
本機に接続可能なカメラについては、以下のサイトでご確認ください。

- ECM-W3
<https://www.sony.net/dics/ecmw3/>
- ECM-W3S
<https://www.sony.net/dics/ecmw3s/>

ご注意

- 上記のサイトに記載がないカメラの場合は、本機と組み合わせてお使いいただくことはできません。

2 デジタルオーディオインターフェース非対応のカメラを本機と使う場合は、レシーバーのスライドスイッチを「ANALOG」に設定してください。



3 レシーバーやカメラの接点がほこりなどで汚れている場合は、認識されないことがあります。綿棒や乾いた柔らかい布（クリーニングクロスなど）で汚れをふき取ってください。水や薬品などは使わないでください。

ご注意

- スライドスイッチが、「ANALOG」、「OFF」または「DIGITAL」のいずれかの位置に確実に設定されていることを確認してください。それぞれの中間に位置していると、正しく動作しない場合があります。

ワイヤレスマイクロホン
ECM-W3 / ECM-W3S

レシーバー／マイクロホンが動作しない、または充電できない

- レシーバー／マイクロホンのオートパワーオフ機能が働き、電源が自動的にオフになっています。レシーバーのスライドスイッチとマイクロホンの電源スイッチを一度「OFF」に設定してください。その後、レシーバーを「ANALOG」または「DIGITAL」、マイクロホンを「ON」に設定して電源を入れ、電源ランプ（緑）が点灯することを確認してください。
- レシーバー／マイクロホンの電源を入れたまま充電した場合、充電ケースから取り出したあとに、レシーバーのスライドスイッチとマイクロホンの電源スイッチを変更しないまま再度充電ケースに入れても、充電は開始されません。再度充電する際は、レシーバーのスライドスイッチとマイクロホンの電源スイッチを一度「OFF」に設定してください。充電中は、電源ランプ（オレンジ）が点灯することを確認してください。